

平成30年度 手作り教材集

1、つまんでみよう(自立活動)

2、ころころ玉落とし(自立活動)

3、大小の系列(かず)

4、平仮名かるた(ことば)

5、ひらがな表 文字ブロック 文字チップ(ことば)

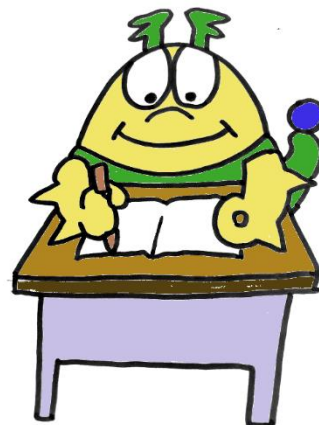
6、ひらがなをよもう(ことば)

7、荷物整理をしよう！(日常生活)

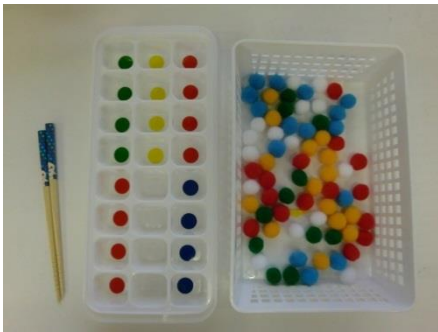
8、自分でエフロンをつけられるように(日常生活)

9、自動改札機 mini(日常生活)

10、こいのぼりを作ろう！！(図工)



教材名 つまんでみよう！

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等
〈写真①〉 大きな仕切りの製氷器  〈写真②〉 小さな仕切りの製氷器 	〈教材の紹介〉 ☆三つの使い方ができる教材を作成した。 ①手でつまんで、色のシールが貼ってある穴に入れる。 (色の分別、手先の訓練) ②箸でつまんで、色のシールが貼ってある穴に入れる。 (箸の練習) ③ピンセットでつまんで、色のシールが貼ってある穴に入れる。 (手先の訓練、集中力の持続) 〈材料〉 ・5色のドットシール(大小) ・製氷皿 ・フェルトボール ・ピンセット ・子供用箸 〈作成の仕方〉 1、製氷皿の底面にドットシールを貼る。 2、フェルトボールをつまみやすいように一つずつに分ける。 〈工夫点〉 ・大きさの違う製氷皿写真①②やフェルトボールを準備し、実態に合わせて使用できるようにした。 ・底辺に貼るシールの場所を一定期間で変えて意欲が持続するようにした。 〈改善点・応用〉 ・子供用の箸を用意したが、割り箸を使ったり、補助箸から段階を踏んだり、箸先に輪ゴムを付けた等、つまみやすい工夫が必要である。 ・小さい穴の製氷皿だと意欲が持続しないことがあった。ここまでに終わりという見通しをもてるように、穴を隠せる仕切りを作るとよい。 〈活用できそうな指導形態および場面〉 自立活動、個別学習

教材名 「ころころ玉落とし」

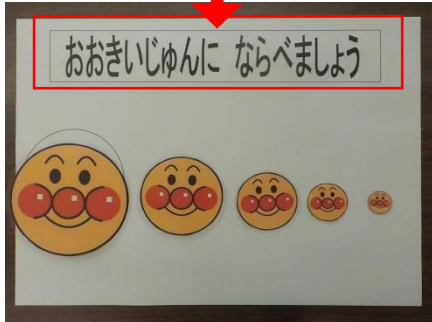
教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等
  	＜教材の紹介＞ ① お皿を傾けて、ビー玉を転がして穴の中に落とす。 ② 裏返して、繰り返し遊ぶ。 ＜目的＞ ・目と両手の協応運動 ＜材料＞ ・ラミネートシート ・プラスチック皿×2 ・ビー玉 ・ビニールテープ ＜成の仕方＞ ・プラスチックの皿にビー玉大の穴を空ける。 ・穴を空けた皿を2枚重ねて貼り合わせる。 ・ビー玉を入れて、ラミネートフィルムで蓋をする。 ・フィルムで手を切らないように、ふちにビニールテープを巻きつける。 ＜工夫点＞ ・転がす感触を楽しむだけでなく、目と手の協応を図ることができるように、熱を加えたラミネートシートで蓋をして中が見えるようにした。 ・ビー玉が1個だと転がりすぎて難しいので、2個入れた。 ＜使用感＞ ・持ち上げるとビー玉がすぐに転がるので、転がして遊ぶことが直感的にわかる児童が多かった。 ・少しの傾きでも速く転がるため、穴に入れるのが難しい。入れようと集中する児童や、「手伝って」とお願いしてくる児童の姿が見られた。 ＜改善点・応用＞ ・両手で持って取り組むことが難しい児童には、棒などで取っ手を取り付けて、意識できるようにすると良い。 ・手の運動に不器用さがある児童が使う際には、転がりにくいように皿の中底に滑り止めマット等を敷いて難易度を下げても良い。 ・迷路のように仕切りを入れると、より注視して操作できるかもしれない。 ＜活用できそうな指導形態および場面＞ 自立活動

教材名 「大小の系列」

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

※1



①



②



③



＜教材の紹介＞

- 「大きい」「小さい」という概念をつけていく教材である。ただのマッチングではないため、「これが大きい（小さい）」「こっちの方が大きい（小さい）」と言葉や身振りで表現しながら取り組むことが大切だと考える。
- それぞれ大きさの異なったカードを、「大きい順」「小さい順」に並べていく教材である。下絵に工夫をすることで、児童の実態に合わせてステップを変えることができる。カードの絵を児童の好きな物にすると、意欲を引き出せることが多い。
- 「大きい（小さい）方をください」と教師とのやり取りの中で、言葉でしっかり理解できているのか、身振りも必要なのか、ということを見極める必要がある。（※1）

＜材料＞

- 児童の好きなキャラクターや乗り物などの、大きさの異なったカード
- カードの下絵
- ラミネートシート

＜作成の仕方＞

- 児童の好きなキャラクターや乗り物などの、大きさの異なったカードを印刷し、ラミネートをかける。
- カードの大きさに合わせて、下絵を作りラミネートをかける。

＜工夫点＞

- ステップを児童の実態に合わせて変えることができるように、下絵を複数枚用意した。
- ①全て下絵ありで並べる。
- ②一番大きい、一番小さいを手掛かりに間に入る大きさを並べる。
- ③一番大きい（小さい）一つを手掛かりに並べる。

＜改善点・応用＞

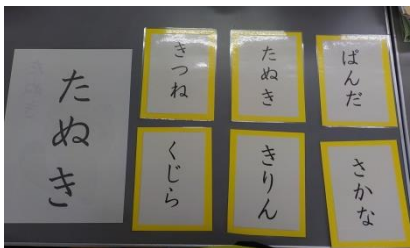
- カードが薄く掴み辛かったので、段ボールなどの分厚い物に貼り付けた方が操作しやすいと感じた。
- 段ボールで型はめのようにしたら、ステップ下げることにも可能になると感じた。
- カードの大きさを5種類にしたが、2種類から始め、3種類、4種類と徐々に増やしていけると良い。

＜活用できそうな指導形態および場面＞

ことば・かず

教材名 「平仮名かるた」

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

<作成の目的>

- ・グループ学習で、平仮名を楽しく学習できればと思い、作成した。
- ・グループの実態に合わせて、2～3文字の単語でかるたを作成した。

<教材の紹介>

使い方

- ① 児童用かるたを机に並べる。
 - ② 教師が教師用のかるたを提示し、児童が同じものを選ぶ。
- ・表面は絵と平仮名、裏面は平仮名のみになっているので、児童の実態によって使い分けができる。
 - ・机に並べる枚数や、教師が提示する枚数は実態によって変更できる。

<材料>

印刷用紙、画用紙、ラミネートフィルム

<作成の仕方>

- ① 好きな単語や絵を入れてかるたを作り印刷する。(A4 4分割)
- ② 一回り大きく切った画用紙の表と裏に、それぞれ絵と単語、単語のみの紙を貼り付ける。
- ③ ラミネートフィルムにはさみ、ラミネートをかける。
- ④ 教師用は、①をA4で印刷し、表裏を合わせてラミネートをかける。

<工夫点>

- ・6枚並べたときに、児童机に入りきる大きさにした。
- ・教師用かるたを大きくしたことで、グループの授業で使用する際に、全員が手本に注目しやすくなった。
- ・文字数をそろえたり、同じ文字のある単語を選んだりするようにした。(「とり」と「りす」など)

<改善点・応用>

- ・ラミネートしただけでは、取りにくそうな児童もいたので、厚みを持たせるような工夫が必要な場合もある。

<活用できそうな指導形態および場面>

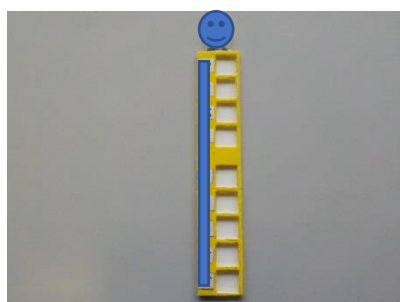
- ・ことば・かず
- ・個別課題学習

教材名 「ひらがな表 文字ブロック 文字チップ」

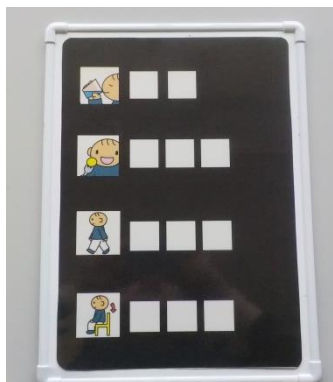
教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

教材① 文字ブロック



教材② 文字チップ



＜教材の紹介＞

教材① 文字ブロック

- ・平仮名表から文字ブロックを取り、文字のマッチングや構成をする。
- ・仕切りボードの下地の文字と文字ブロックのマッチング

教材② 文字チップ

- ・平仮名表から文字ブロックを取り、文字のマッチングや構成をする。

＜材料＞

教材① 文字ブロック

- ・平仮名文字ブロック、仕切りボード、ひらがなを印刷した物、厚紙

教材② 文字チップ

- ・平仮名をラミネートした物、磁石、仕切りボード、ホワイトボードイラストシート

＜作成の仕方＞

教材① 文字ブロック

- 1 平仮名を印刷した物を仕切りボードに一文字ずつ貼る。
- 2 仕切りボードの使わない部分を厚紙で隠す。

教材② 文字チップ

- 1 平仮名を各4枚ずつ印刷、ラミネート、裁断、裏に磁石を付ける
- 2 文字の構成シートを作成、ラミネート、裏に磁石、ホワイトボードに貼る

＜工夫点＞

- ・「教材①文字ブロック」は各平仮名が一つずつしかなく、文字の構成が難しかったので、「教材②文字チップ」を作成する時に各平仮名チップを4枚ずつ用意し、濁音の文字チップも作成した。
- ・児童が教材を見て取り組みたいと思ってくれるように、各文字を仕切りのあるボードに入れて一目で分かりやすくし、文字ブロックやチップを置く位置を白抜きにした。
- ・一つの教材でマッチングや構成などができ、シートを変えることで児童に合わせて様々な課題ができるようにと考えて、作成した。

＜改善点・応用＞

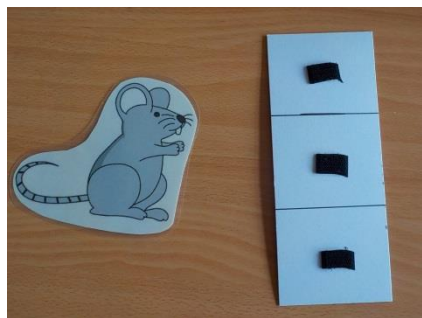
- ・半濁音や長音符などを入れて構成できる単語を増やす。

＜活用できそうな指導形態および場面＞

ことば、かず

教材名 「ひらがなを よもう」

教材等の写真添付



音声ペン

教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

＜教材の紹介＞

- ・動物のイラストを見て、名前がわかり、平仮名カードを並べて、名前を表す課題。文字が読め、名前の通り順番に並べることで、文字が読めることを確認できる。
- ・複数の平仮名カードの中から、動物の名前を選び、台紙に貼る。

＜材料＞

- ・動物のイラスト、平仮名カード
- ・平仮名カードを貼る台紙

＜作成の仕方＞

- ・動物のイラストや平仮名を印刷し、ラミネートをかける。
- ・平仮名カードの大きさに合わせた台紙を用意する。

＜工夫点＞

- ・どの児童も好きな動物のイラストを使った。
- ・集中すること、見るのが難しい児童には、音声ペンを使って、文字やイラストを注目しやすくし、見られるようにした。
- ・「パ〇ダ」など、〇に入る文字をいくつかの文字カードから探して貼ったり、イラストを見てバラバラに置かれた文字を正しく並び替えたり、子供の課題に合わせて、難易度を変えることができる。
- ・2～4文字の名前の動物の文字を、一文字ずつ取り外すことができるようにしたことで、名詞をかたまりや形ではなく、一文字ずつ選んで貼って、読めるようにした。

＜改善点・応用＞

- ・動物だけでなく、食べ物や乗り物など種類を増やすことで、言葉も増え、飽きずに取り組むことができる。

＜活用できそうな指導形態および場面＞

ことば・かず
自立活動

教材名 「荷物整理をしよう！」

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

＜教材の紹介＞

- ・朝の登校後、リュックサックの荷物を一つずつ、それぞれのカゴに入れたら、同じ荷物のカードを剥がす。
- ・全部剥がすと、イラストが現れる。

＜作成の目的＞

- ・上履きのマジックテープを剥がすことに取り組んでいるため、剥がす感覚に慣れることを目的として作成した。また、一つずつ荷物を整理し、終わったことを視覚的に捉えられるように、大きめのカードにして取り組むようにした。

＜材 料＞

- ・荷物カード
- ・児童が好きなイラスト
- ・カードリング（１００円ショップ）
- ・土台（ベニヤ板）

＜工夫点＞

- ・上履きのマジックテープ剥がしに取り組んでいるので、同じ形でできるようにした。
- ・好きなキャラクターのイラストにし、意欲をもって取り組めるようにした。

＜改善点・応用＞

- ・剥がしたカードを入れる箱やカゴを用意する。
- ・カードを上下ではなく横一列にしたほうが、順番がわかりやすく見通しをもてるかもしれない。
- ・慣れてきたら、別のイラストに変更して意欲をもたせたりカードの内容を変えたりして、活用できると感じた。

＜活用できそうな指導形態および場面＞

- ・日常生活の指導
- ・自立活動
- ・個別課題等

教材名「自分でエプロンをつけることができるように～手元をよく見て～」

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等
  	＜教材の紹介＞ ・自分でエプロンが付けることができるように、手元を注視できるような教材を考えた。 ・エプロンの紐を腰に一巻き、お腹の前に持ってきて赤白紐の輪の中に目印となる筒状のものを通す。 ＜材料＞ ・エプロン ・紐2色 ・目印となる筒状のもの ＜作成の仕方＞ ・既製品のエプロンの腰ひもを切り、色の異なる2色を縫い付ける。 ・一方の紐は輪になるように結び、もう一方のひもは目印になるものに括り付ける。 ＜工夫点＞ ・意図的に手元を見て操作ができるようにした。 ・紐を横に引っ張っても抜けにくい。 ＜改善点・応用＞ ・手元を注視できるようになれば、徐々に次段階の紐結びの練習に取り組むことができる。 ＜活用できそうな指導形態および場面＞ ・日常生活の指導

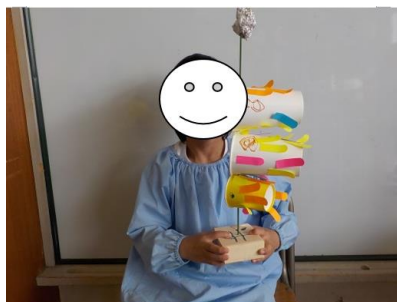
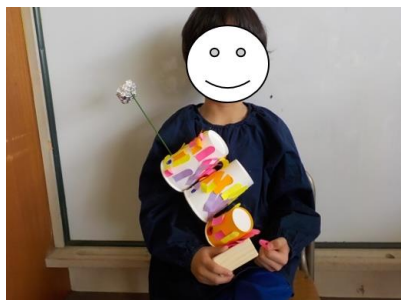
教材名 自動改札機 mini

教材等の写真添付	教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等
写真①  写真②   	〈教材の目的〉 ・校外学習の事前学習として、切符を改札に入れる練習を行うため。 ・模型の切符口に切符を入れ、改札を通る一連の流れを学習するため。 〈教材の紹介〉 ・黄色の枠に切符を入れると、斜め下の取り出し口から出てくるので、切符を入れて取る練習ができる。 〈材料〉 ・段ボール箱（今回はパソコンが入っていた箱を使用） ・プラスチック段ボール ・ブックエンド ・ラミネート ・発泡スチロール 〈作成の仕方〉 ・段ボールの中に、プラスチック段ボールを斜めに入れる。写真①参照 ・切符の入れ口と取り出し口を作る。 ・倒れないように、段ボールの底にブックエンドを付ける。 ・取り出し口には切符を取り出しやすいように、スポンジ素材の滑り止めを付ける。 〈工夫点〉 ・プラスチック段ボールを中に入れ、切符をラミネートする（写真②）ことで切符が滑りやすくなり、すぐに取り出し口から切符が出てくるようにした。 ・子供たちの腰の高さに設置した。 ・実物の自動改札機に近づけるために、IC や矢印を付けた。 ・切符の入れる位置がわかりやすいように、切符口の周りにカラーテープを付けた。 〈改善点・応用〉 ・切符を取り出す位置が低かったので、取り忘れる児童が多かった。 ・切符を入れるまではできたが、切符を取ることにつながらない児童もいた。 〈活用できそうな指導形態および場面〉 生活単元学習（校外学習の事前学習）

教材名

こいのぼりをつくろう！！

教材等の写真添付



教材の紹介や工夫の要点・発表を受けての感想等

5月の季節に合った立体作品の作成（2時間扱い）

＜作り方＞

- ・紙コップに角を丸く切った、4色(紫、黄色、ピンク、青)の付箋を用意し、貼り付ける。こいのぼりの鱗を表現した。
- ・こいのぼりの目の部分は、シールを貼る、ペンで描くなど実態に応じて、表し方を工夫するようにした。
- ・アルミホイルを丸めてボールを作り、園芸用の支柱に刺して、こいのぼりの天球とボールに見立てた。
- ・支柱に紙コップのこいのぼりを通して、あらかじめ穴をあけておいた木材の土台に差し込む。

＜工夫の要点＞

- ・付箋を好きな場所に、好きな数だけ自分で貼ることができる。
- ・ほとんどの工程がはめ込み式なので、見本を見て児童が組立てやすい。
- ・紙コップの色を白にしたので、鱗にした付箋の色が目立ちやすい。

＜改善点＞

- ・紙コップのこいのぼりを支柱に通すだけでは、ずれてしまうため、ずれないように紙コップの内側でセロテープを支柱に巻くなど固定する必要がある。
- ・付箋の特質上、貼り直しができる代わりに、はがれやすいため、最終段階で固定する必要がある。
- ・紙コップがつぶれやすいため、持ち帰りが大変だった。分解して持ち帰り、家で組み立ててもらった。

＜活用＞

- ・付箋だけではなく他の素材もあるとバラエティーに富むため、用意ができるとよい。
- ・土台の色を好きな色に塗ったり、紙を貼ったりして、活動量を増やしたり、個々の個性を引きだしたりすることもできる。
- ・支柱の先は風車や他の材料など、準備するもので、活動も広がる。

＜活用できそうな指導形態および場面＞

図工